

総合研究大学院大学

【N084 総合研究大学院大学】

| | |
|-------------------|--|
| | 総合研究大学院大学 理学分野 |
| 学部等の教育研究 組織の名称 | 大学院物理科学研究科 (D:10 第3年次:15) 大学院高エネルギー加速器科学研究科 (D:9) 大学院複合科学研究科 (D:8 第3年次:10) 大学院生命科学研究科 (D:9 第3年次:18) 大学院先端科学研究科 (D:5 第3年次:1) |
| 沿 革 | 昭和63 (1988) 年 総合研究大学院大学設置 (数物科学研究科、生命科学研究科) (博士後期課程) 平成9 (1997) 年 大学院先端科学研究科設置 平成16 (2004) 年 大学院数物科学研究科を物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科の3研究科に改組 大学院生命科学研究科を博士後期課程から5年一貫制博士課程に改組 平成18 (2006) 年 大学院物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科を博士後期課程から5年一貫制博士課程に改組 平成19 (2007) 年 大学院先端科学研究科を博士後期課程から5年一貫制博士課程に改組 |
| 設置目的等 | <p>総合研究大学院大学は、大学共同利用機関の優れた研究機能を活用して大学院教育を行い、学術研究の新しい流れに先導的に対応できる、幅広い視野を持った国際的で独創性豊かな研究者を養成することを目的として昭和63年に設置された。</p> <p>平成9年に、学融合により従来の学問分野の枠を超えた先導的な学問分野の開拓を創出しうる国際的に通用する高度な専門性と広い視野を有する人材を養成することを目的として、先端科学研究科が設置された。</p> <p>緊密な専門学問分野に再編することにより、学生への教育研究の質的向上を目的として、平成16年に数物科学研究科を物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科の3研究科に再編した。</p> <p>多様な学修歴や経験を有する優れた学生の確保を可能とする弾力的な博士課程(3年次編入学定員を設定した5年一貫制)に、生命科</p> |

| | |
|---------------------|--|
| | <p>学研究科（平成16年）、物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科（平成18年）、先導科学研究科（平成19年）が順次移行した。</p> |
| <p>強みや特色、社会的な役割</p> | <p>総合研究大学院大学は、自然科学研究機構、情報・システム研究機構、高エネルギー加速器研究機構、宇宙航空研究開発機構等に設置されているそれぞれの分野で我が国を代表する研究所を基盤機関とする博士課程のみの研究大学院大学として、理学の分野においては自然科学あるいは人と社会のための科学に関する理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめることを通じて文化の進展に貢献することを目指し教育、研究、社会貢献に取り組んできたところであり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基盤機関が有する優れた人的・物的環境を活用して国際的にも最先端の研究現場で博士課程教育を直接実施し高い専門性と国際的な通用性を付与するとともに、全学的には精選した専門基礎教育や科学と社会に関する総合教育を行い、新しい学術分野の開拓や自然と調和のとれた科学あるいは人と社会のための科学の発展に必要な視野の広さを付与することによって、高い専門性と広い視野ならびに国際的通用性を兼備してグローバル化社会を牽引できる博士研究者を育成する役割を果たす。 ○ ①博士後期課程から5年一貫制博士課程の移行をより定着させるため、教員による教育についての相互の積極的な議論及び、3年次進級判定、研究計画書審査などの博士学位取得にいたるまでのロードマップの明確化・授業科目の構造化、②新たな学問分野、学生・社会へのニーズ及び柔軟なキャリアパスへ対応する専攻・研究科を横断する特別教育プログラム通じた高い専門性への取組、③優れた留学生の確保と講義の英語化や海外武者修行プログラムによる国際的通用性の確保、④研究科間合同セミナー・滞在型の新入生合同セミナー「科学と社会」関連科目の開講による視野の広さの確保を軸に世界的にもユニークでかつ最高水準にある基盤機関を拠点とした、「分散」と大学全体として分野を横断した「総合」の大学院教育を追求する。 ○ 本学の理学は、国際的にトップレベルにある遺伝、生理、基礎生物、進化、統計、情報、素粒子原子核、物質構造、加速器、機能分子、構造分子、天文、核融合、宇宙、極域の15研究領域から構成されているが、基盤機関や大学共同利用機関法人の研究ミッションの推進に加えて、本学はこれらの研究現場に大学院生を参画させそ |

ここで実施する学位研究を通してそれぞれの分野の創造的かつ持続的な発展に資するとともに、総合的な観点から人文諸分野も加えた自由闊達な学融合を試み先導的な学術分野の創出を積極的に図ることによって世界を牽引する研究の推進に寄与する。

- 本学の基盤となる大学共同利用機関あるいは共同利用システムを有する機関がそれぞれに本来の共同利用の機能と最先端の知識の普及という社会的な貢献を果たしてきたことに加え、本学は本部のある神奈川県を中心に周辺地域の住民や高校生に対してサイエンスカフェ、講演会、中高生対象の科学の集い、新聞連載など積極的な情報発信を実施してきたこれまでの実績を生かし、基盤機関と協力して理学研究の意義に対する国民の理解を深めるとともに科学知の社会化の推進ならびに知識の新結合によるイノベーションの創出に寄与する。
- 本学が当初博士後期課程のみの大学院として発足した背景には、大学院生の流動化を促進することのほかに、急速に発展する自然科学をリカレント教育する社会的なニーズが高まってきたことがあり、この設置理念に基づき引き続き社会人学生を積極的に受け入れ知識基盤社会の高度化に資するとともに多彩な人材養成を通じて産業界との連携を強化する。
- 地元横須賀高校との高院接続協定書に基づいて高校生に対する人文・理科教育に貢献しつつ、在校生の25%に達した留学生のより積極的な受け入れ並びに日本学術振興会と共催して欧米先進5か国の博士候補者やポスドク（年約100名）との国際交流を推進する。